



# オクソン 倶楽部



## 謹 賀 新 年

1997年 初春号



私も家元を襲名しましてより八年目の春を一同共々無事に寿ぐ事になり、元旦早朝の利休祖堂で大福茶を勤めますまえに、居士像へそれらの事を感じ、謝致しつつ、又本年の更なる流友各位の御発展を念じ、御茶湯の儀を執り行いました。この元旦の祖堂での儀式も、思いますれば、祖母膝にだかれて、先々代愈好斎の大福点前を、おぼろげにながめていました以来、父有

## 伝燈（統）について

茶道武者小路千家  
第十四世家元 千宗守

隣斎、そして自分自身の点前と、都合約五十年、半世紀近く、毎新春の第一日目の早朝の伝統行事を体験して参った事になります。

この大福茶に用いる釜の湯を沸かすための炉中の火は、御高承の如く、大晦日に用いていた火をそのまま夜中持ち永らえて、元朝に至るのです。即ち前年の最後の茶席中の火を、新年第一番目の炉中の火として用いるの

通常の炭点前に用いる炭の分量の倍近く道具炭を火床一杯に配し、その上へ、たつぷりとぬれ灰をかけて、謂わゆる「埋み火」の状態にして約六時間後の朝を待つのです。この一連の細い作業は、必ず当主が自らの手で行う事を慣例として参ったのです。

京の都を千数百年來、鎮護して来たと言われるその東北に位置する比叡山は、延暦寺の根本中堂

です。除夜の鐘の音を遠く聴きつつ、つい先程まで皆々で、本年の回顧等々をしつつ茶を喫していた席（行舟亭）の炉中より、大福茶の行われる祖堂の真新しく塗り換えられた炉壇へとその火を移し、同時に迎春と共に波みあげた井戸より若水をたつぷりと満たした伝来の与次郎作になる利休居士遺愛の「湯の釜」を掛けます。炉中には、昨年より移した下火に加えて、

に、初祖伝教大師最澄が唐より、仏法の証として招来したとつたえられる過去、現在、そして未来を象徴する三つの灯をその開創より今日に至る迄守り続けております。

度重なる戦乱の災禍をも、果敢にくぐりぬけ、多くの仏法を奉ずる人々の生命をも代償として今尚燃え続けている灯であります。

この精神こそ、今日用いられる「伝統」の概念

の基本に他ならないと思われます。即ち「伝燈」の言葉こそ、我々日本人が最も心の深奥で持ちつづけている、その起源より現在そして未来へ永く継続する、あるいはしようとしている事々に対して価値を見出し出す気質を最も端的に言い表していると思われます。

私の過ごして来た半世紀の自分史の中で変わる事なく毎年初に勤め続けて参った前述の行事を、この新春も又無事に勤め終えた、元旦の朝、皆々飲み回した本年最初の濃茶（大福茶）を亭主である私自身も、その最後に喫しつつ「伝燈」の意味する処を再吟味致したのであります。

昭和二十年京都生まれ、茶道武者小路千家第十四世家元不徹斎（財）官休庵理事長、慶応義塾大学、同大学院終了、文学修士号を受く。平成元年十二月、第十四代「宗守」を襲名、以来家元として四百数十年にわたる千利休以来の茶の湯の道統と血統を継承し今日に至る。

平成六年三月、バチカン市国法王庁に於いて、同教皇ヨハネ・パウロ二世、殿下に単独特別謁見を許され日本の文化代表としての茶の湯を御説明する一方、欧米の各大学等で講演し、又政府派遣の文化使節としても世界各国へ赴く。

主著「利休とその道統」「新修茶道妙境」等多数、NHKテレビ「茶の湯講座」等出演。

千宗守（せんそうしゅ）  
プロフィール





